

医療法人南労会 紀和クリニック 紀和ブレスト(乳腺)センター

(和歌山県橋本市)

最先端の乳腺疾患治療の施設を目指し 県内初の乳房再建センター新設へ



↑「すべては患者様のために」をスローガンに掲げる玉置剛副センター長

←曼荼羅をイメージした洗練されたデザインが特徴の待合室



医療法人南労会 紀和クリニック
和歌山県橋本市岸上18-1
TEL : 0736-33-5000
URL : <http://www.nanroukai.or.jp/Breast/gairai.html>
診療科目：内科、循環器科、呼吸器科、神経内科、乳腺外科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、リハビリテーション科、放射線科、血液透析

良性かどうかの判別が難しい非浸潤がんも
確実な診断ができるマンモトーム生検装置



乳がん検診後の精密検査としてMRマンモグラフィーを導入。乳がん診断率が格段にアップした

注目POINT!

- ① 県内唯一の乳腺専門医2人体制
数少ない乳腺治療の専門医2人を揃え、専門の治療施設を開設。近隣医療機関などからの紹介もあり、着実に新患数が増加している。
- ② 専門家集団によるチーム医療で術後ケア充実
術後の化学療法、リハビリテーションそれぞれに専門スタッフを抱え、質の高いチーム医療体制を構築している。
- ③ 常に先を見据えた治療環境の整備を図る
リンパ浮腫外来と県内初となる乳房再建センターを新設する予定。専門的な人材育成に取り組むなどソフト面の強化にも励む。



「術後のトータルケアが重要」と語る梅村定司センター長

充実したチーム医療体制 術後の生活までトータルにケア

南海高野線橋本駅から、車で10分ほどの場所にある医療法人南労会紀和病院。その門前にある病院の外来機能を集約した紀和クリニックは、主要な診療科を標榜し、多様な患者に対応する一方、2005年には総合リハビリテーション承認施設になるなど、質の向上にも努めている。09年には乳腺疾患治療を行う紀和ブレスト(乳腺)センターを開設した。和歌山県では、乳腺治療の専門医および治療施設の数が少なく、現在、県内には7人の乳腺専門医しかいない。そのうちの2人が同センターに在籍しており、県内屈指の体制を誇る。

「和歌山県内はもとより、奈良県など県外の開業医の先生方から患者様を紹介していただくことも少なくありません。そのため、新患数は着実に増えています」と、梅村定司センター長は苦笑する。

近年、乳がん治療は日を追うごとに専門化しており、外科手術のみならず術後の放射線療法や化学療法、リハビリテーションなど各

療法で高いスキルが求められている。同センターでは各分野に専門スタッフが揃え、質の高いチーム医療が実践できる体制を構築していることが強みとなっている。

もつとも、患者から厚い信頼が寄せられている理由は、治療技術などだけでなく、精神面への配慮など充実したソフト面にもある。具体的にはマンモグラフィー、マンモトーム生検などの検査には必ず女性の臨床検査技師が対応するなど、受診環境にも気を配っている点だ。「乳がん治療は、長ければ治療期間が10年にも及ぶため、最新の治療技術、医療機器などのハード面はもちろん、術後の生活面や精神面のケアなどソフト面の充実も欠かせません」と、梅村センター長は語る。

同センターでは開設以来、地域住民や近隣の医療機関に対して講習会などを行い、乳がんに関する正しい情報の普及にも尽力している。その講習内容は治療から早期発見・予防まで多岐にわたる。「土地柄なのか、今までは乳がん治療について医療機関も患者様もそれほど積極的ではありませんでした。今後は、これまで以上に地域住民

や医療機関の方々より多くの情報を共有し、患者様にとって最良の治療を常に施せるように努めていきたい」と、玉置剛副センター長は腕をまくる。

リンパ浮腫外来の新設も 費用面の理解を得ることが課題

同センターがさらなる乳腺疾患の治療体制の充実を図るべく、現在計画を進めているのが、リンパ浮腫外来と乳房再建センターの新設だ。梅村センター長は「順調に行けば今年の夏から秋にかけて開設できる」と語る。

玉置副センター長はこれらの狙いについて次のように説明する。「リンパ浮腫については、病院や診療所の先生方にもまだ周知されていない現状があります。乳房再建センターは、計画どおり開設できれば県内初の専門施設となります。いずれの治療も潜在的ニーズは非常に高いと見込んでいます」

この計画に合わせて、同センターは人材育成にも注力。今年、和歌山で2人目となる乳がん看護認定看護師の資格取得予定者1人、およびNPO法人日本医療リンパ

ドレナージ協会(MLAJ)主催の中級セラピスト資格取得者1人を輩出し、さらに充実した診療体制の構築を目指している。

課題は、費用について患者の理解が得られるかどうかだ。「患者様には、リンパ浮腫治療、乳腺疾患治療ともに保険適用と適用外の診療が必要になります。そのため、費用の面を理解してもらえようように、うまく説明できるかが成功の鍵になると考えています」と、玉置副センター長は懸念する。

リンパ浮腫外来は、乳腺疾患患者への術後ケアの一環で行うことをベースにするなど、当面は様子を見ながら今後の事業展開を考えていくという。「人材育成をはじめ、治療環境の整備、術後ケアの充実を図りながら、地域に根ざした医療活動を実践していきたい」と抱負を語る梅村センター長。年々、乳がん患者が増え続けるなか、乳がんに対する住民の意識は、啓発活動が盛んに行われている都市部に比べて地方は低いといわれている。同センターの取り組みが地方での成功モデルになるのか、今後も注目していきたい。